

# 研究通信

No. 10

研究会部内  
東京大学  
社会科学部  
社会学研究  
会  
村落  
研究  
会  
東京  
大学  
東社

## 提案

今年の宿題も決定しました。いよいよ決定  
第二年度の活動が、積極的に、はじめられな  
ければならぬと心をかえりておられるといえま  
しょう。このときにあたって、二つのことを  
提案したいと思ひます。

その第一は、研究会のことです。すでに御  
承知のことと思ひますが、東京在住の若い私  
達は、四月以降毎週一回づつ、アメリカ農村  
社会学の史的発展をたどり、主要な戦後の文  
献を順次に読んでいくという勉強会をつづけ  
てきています。発足以来一回もやらずにつ  
づけておりますが、まだはじめてから日も浅  
く、やうと戦前までのアメリカ農村社会学の  
概要を述べた諸論文をひとつお読み、結局  
Negrohood and Communism の問題を中心に  
することに決め、これに關する戦後の二、三  
の論文に手をつけたらばかりです。この研  
究会をつづけていくことには、仲々の障害が  
あります。できるだけ多くのひとびとに参加  
してきつたいと思ひますが、あらかじ

め「何曜日の何時から何処で」ということを  
決定することは、メンバーが必ずしも自由に  
自分の時間をもちうるまことにいたっていない  
ため、今のところ不可能に近い状態です。そ  
のとき々々に応じてすべてを決め、とにかく  
一週一回は確実に実行していくということに

精一杯の努力をしています。近日中に、少く  
とも曜日だけは決定して、胸心をもちつた  
ひとりでも多く参加していただけるようにし  
たいと思ひます。出席してやるうとい  
方は、御連絡のたゞけたら幸甚と思ひていま  
す。東大の塚本、松原に御一報のほどお願ひ  
します。そして私達はこの勉強会を母胎にし  
て、月に一回ぐらゐ、より大規模な研究会の  
開催を計画しています。私達が教示をうけた  
い方々を講師にしてお話をうけたまわるとい  
う形のものです。こうしていけば、東京では  
小さな勉強会が基礎的な文献の講義を主にし  
て毎週、大きな研究会が毎月、ひらかれるこ  
とになるわけです。三日坊主におわらさない  
ように、私達は一生懸命にやってみようとい  
ます。会員各社の御協力をひたすらお願いし  
ます。そしてこうした研究会が各地区ごと  
にひらかれるようになるための一石にならう  
ならばと思ひます。さらに、この研究通  
信が、各地の研究会、勉強会の記事でうすま  
るようになるならば、はじめて村研らしい村  
研になるのではないかと話してあります。

次号には、まったくさ、やかではあります。私  
達の勉強会のはかかられたことを御慰  
しようと思ひます。御多用のことと思  
ひますが、私達の意図に対する御賛察と御  
導とを期待してあります。

第二は、村研の運営組織についてです。村  
研は現在、本部事務を担当されている東京教  
育大学の研究室と宿題委員会、年報委員会、  
研究通信委員会等があります。これは、あ  
らかじめつくれた組織ではなく、会をやっ  
ていく必要上便宜的にもつくれた組織であつて  
かなり自然発生的なもののように思ひます。  
こうしたことが、いわゆる村研らしさかも知  
れませんが、しかし村研も発足以来二年目でも  
あり、仕事の分担をはっきりして、活発な運  
営ををしていくために、現在の組織について  
考える必要があるのではないでしようか。例  
えば本部的事務を東京でつづけていかなけれ  
ばならぬ理由はなく、各地を廻していくと  
いう意見で今秋以後本部を移すこと、また各  
種委員会を再編成するなりそのメンバーを交  
えることなどでありましよう。私達はよりよ  
り話しあつていくことですが、秋に東京で  
あります今年の村研の大会では、こうしたこと  
を充分に打合せ、とくに各種委員会の委員は  
原則としてその席上において公選することに  
したらよいと思ひます。会運上の役職を公  
選にして、もっとも活発な全体的活動を

表 II 年 譜

日	黨		全 業	農 青 連	農 協 會 議	農 協 委 員 會
	統一派	主体性派				
20.10.3						
11.3						
12.12						
21.2.9						
6.11						
6.18-19						
10.5						
22.2.12						
7.21						
7.25-26						
9.4-6						
10.3						
23.2.3-5						
4.13-14						
5.5						
5.17						
5.25	全 國 農 民 大 会					
11.18	農 民 政 治 力 結 集 全 國 協 議 会					
21.3.23	本 部 声 明					
4.13	全 國 農 民 代 表 者 会 議					
4.22-24						
5.13						
5.26						
7.16						
7.24						
9.16	農 民 危 險 突 破 全 國 農 民 大 会					
10.24	全 國 農 民 大 会					
10.30	農 民 職 線 統 一 全 國 代 表 者 会 議 (反 共 統 一)					
25.1.14-15	農 民 組 合 組 織 世 話 人 会					
1.24-25	農 民 組 合 組 織 世 話 人 会					
2.2.9	農 民 組 合 組 織 世 話 人 会					
3.12-13						
7.21						
10.6						
26.3.3-4						
8.25-26						
9.11						
27.7.22						
8.20						
11.19						
11.28						
28.1.17	農 民 組 合 組 織 世 話 人 会					
1.21	農 民 組 合 組 織 世 話 人 会					
2.25-26	農 民 組 合 組 織 世 話 人 会					
3.11-12	農 民 組 合 組 織 世 話 人 会					

資料 戦後農民組合組織発展年譜

期待すべき時期になったのではないでしょう。か、こうした種類の問題についても、意見の交換もしたいと思っています。

以上の二つのことは、提案にならない提案になってしまいました。意のあるところをあくみいたゞけることを信じ御高見が通信委員会にあつまる日を楽しみにしています。

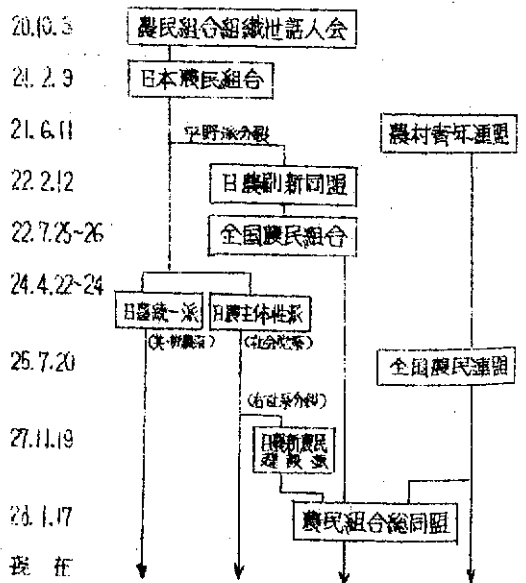
本年度の課題として「農民運動」がとりあげられた。そこで東京大学社会学研究室関係の会費諸兄によって、戦後日本農民組合組織

の発展と変化を日誌的に整理し、資料として掲載することにした。

農民運動を考える場合には、どうしても全国的な農民組合の組織・活動、更に政党の動向、政策の変化について一応の理解と、それとの関連をみて行かなくてはならないからである。

次号からは、この第二面はこうした資料、論文を掲載したいと考えているので、そくそく会費諸兄の投稿を願つてやまない。

表 I 戦後農民組合の系譜



宿題報告の課題

農地改革と農民運動

本年度の宿題は別報のごとく調査の結果「農地改革と農民運動」と決定しました。したがって本年度は農民組合運動のあった村を調査して農地改革との関連を追求することになりますので、このような状況にそつ村の調査をすることのできた人から、報告者をつのります。報告者はメモを 月 日までに宿題委員会に提出して下さい。

また農民運動のなかつた村を研究した方々は向かいなかつたかという点を調査分析して討論に参加していただき有効な成果を収めるようにしたいと思ひます。

なお、宿題委員会においし一応つくりあげました調査の要綱と討議すべき題目は次のようになっていますから、なるべく左記の要綱に従つて調査し報告していただきと存じます。調査報告の要綱

一、村の概況

A 歴史的發展

B 社会構造

二、農地改革

A その概要

B 改革前と後との変化

三、農民組合の形成とその構成

その運動形態とその消長

四、村の現状と農民運動

A 部落と行政村の現状

B 農民運動の現状と将来

研究の重点と討議すべき題目

一、なぜ農民組合運動が起つたか

A 歴史的背景—過去の運動外部の組織との関連意識の感応はどうかであったか

B 社会構造との関連—地主小作本分家関係等とのつながりはどうかであるか

C 農地改革との関連—農地委員会との関連農地改革における實際の形態とのつながりはどうかであるか。例えば土地取上げへの反撥などはどうかであったか、外部からの働きかけ。

二、どのような運動をしたか

A 農民組合の構成—どの程度の参加があつたか、どの層が主導したか

B 農地改革への影響—どの程度農地改革に影響を与えたか

C 村の社会への影響—旧来の社会構造にどのような作用を及ぼしたか

三、いかなる消長をたどつたか

A 農民運動の展開に作用するもの—何がその発展を妨げたか、どうして延びなかつたか、社会構造との関連において旧来の社会関係（地主小作親分小分同茶畑成近隣等）がどのように運動を左右したか。

B 農民組合に反対する運動—地主的保守勢力乃至自作層が集団的に抵抗しなかつたか。その形態はどうかであったか。

C 農地改革後の動きとのつながり—たとへば農協の再編等によつて制約され、解任過程を辿らなかつたか。

四、現状はどうかであるか

A 農民運動の現状—解消してしまつてゐるか、残存してゐるか、自作化乃至窮乏の上昇の程度とどうつながるか、財任層小作料土地取上げにどう対応してゐるか。（本年は小作契約更新の時期にあつたか）

B 行政村との関連—これは上述の諸点をみる場合、つねに留意すべきであるが、特に現状分析の際農業委員会行政村の政治とのつながりがどうかであるかをみる。農民運動がそれによつてどんな影響を与えたか、逆に影響されたか。

C 農民運動の将来—現在の農民運動が今後どうなるか、前記の小作関係更新との関連。再び活動する芽はどこにあるか、それを制約する条件はどこにあるか。

（4頁より）えして訂正すべきところは訂正してもらうよう努力がなされるべきだということにきまつた。その期限は大会前までとはいはれないかということ、第二集の委員は、規定の用紙による公選にすることなどもあわせきめられた。

# 村研打合せ会

四月十六日 東京學士会館

出席者 有賀喜多野、小山、福武、村松、中野、塚本、浜島、北川、松原の各氏

## 一、大会テーマの件

本年度大会テーマについて、寄せられた会費諸氏よりの意見をまとめると次の如くである。

A B折衷案 大山彦一、山本登、島田隆三氏

B案支持 生田精、皆川勇一、慶知孝法大

(林福苗、後藤和夫、神合方、高野史男の各氏)

別途テーマ 原宏(兼業農家)、斎藤兵市、山岡栄市(農村、漁業改革)の各氏

また当日出席の浜島朗、中野卓氏もからも兼業の案が出たが、昨年大会の結論が、農地改革継続であり、農地改革の向題は更に進捗すべきテーマでもあるので、本年度は別途テーマを考えず、それは来年に進すこととした。そして種々論議の上、農地改革をめぐる「家」地主「農民組合」の向題と三テーマに示されたが、結局「農民組合」の向題をとりあつかうことにおちついた。(別掲の原案参照)

## 二、宿題委員会の件

村研テーマにしたがって、新しく福武直、大内方、内山政照三氏を宿題委員に推薦し必

要に応じて委員補助を定めることとした。また来年度からは、前年度の大会においてテーマを定めることとした。

## 三、財政報告

すでに手持ちの額は五五〇〇円となり、まったく心細い状態にある。それに二九年度会費払込者は六人しかないので、開始末で、会員諸氏の御協力を望むこと切である旨報告があった。

## 四、研究通信の件

河内も通信において述べているように最近通信原稿の集りが皆無に近く、スランアを乗りこえるのが目下の緊要な課題であるとの編輯部からの要望があった。

## 五、研究会の件

村研の活動を一層盛かにしようとの期待からすでに東大、東京教育大で、若い層が研究会をはじめている。こゝでは毎週一回アメリカ農村社会学の文献研究を行っており、こういったものを土台に、一ヶ月一回、調査報告を中心にした東京での研究集会を行つたらどうかとの提案があった。

## 六、年報の件

年報に際しては、有賀氏が、前号に状況報告をされてるが、つけ加えれば、第二集の原稿は十二月とせすに早めに年報編輯委員の手で集め、協議の上、送りか(3頁)

# 会計中間報告

五月四日現在

## ◎収入の部

前年度繰越金(前年度)	三三二九円
28年度分会費払込八名(※)	一六〇〇円
29年度分会費払込十名(※)	三〇〇〇円
無期借入金	六〇〇〇円
振替口座預り	八八円
計	一四〇一八円

## ◎支出の部

印刷及発送費	二九〇〇円
印刷	二二〇〇円
年報委員会通知ハガキ代	五〇円
振替貯金払込用紙	一七五円
計	五三二八円

## ◎差引現任高(※※※)

八六八八円

(※)既報以後の28年度分会費払込者 細野誠之、島田幸三郎、中島東雄、三浦一、海野光洋、矢口誠、浜島朗、中島盛光

(※※)29年度分会費払込者 喜多野清一、武田良三、竹内利美、小山隆、福武直、松村、福生正明、有賀喜直衛門、森岡清美、中野卓

石お、ほかに既報の如く山本登氏は廿九年度分、三十九年度分払込み済み(三十一年度分までとして払込み)と、この会費値上げのため。また、二宮哲雄氏も既に廿九年度分払込み済み(値上げの為、要百円追加)。となつております。

今回同封の払込用紙にて何卒全会費より御送金下さいませよう。

(※※※)現在高八六八八円では、この号、29及び次の期を出せば、29の発行にはやゝ不足を来すという額にすぎませんから、秋の大会の際にほどと御考えにならずに、御送金下さいませよう。でない、その大会にまで滞りつづけることも困難になりますから。

(中野 卓記)